

大阪大学図書館報

Vol. 6. No. 4. August. 1972

図書館長を辞任するにあたって

関 集 三

昭和44年6月、大阪大学紛争はげしいさなか、宮地前館長のあとをうけて館長に就任、以来3ヶ年、釜淵総長をはじめ、部局長、詳議員、図書館分館長および図書委員会の多数の方々の御支援により大過なく任期を果させていただきました。また、この困難な、しかも図書館近代化の急を要する時期に、図書館の中野事務部長、藤井、田保橋両課長をはじめ図書館職員の多数の方々から御教示、御支援または補佐をいただいたことは最も感銘するところでした。こゝにこの紙面を借りてこれらの皆様へ厚く御礼申し上げます。

さて在職中に考え、実感し、或いは実施されましたことを回顧して簡単にのべさせていたゞきたいと思ひます。

A) 学内的問題：大学紛争を契機として大阪大学改革準備調査委員会が設けられ、大学教育と研究に密着した図書館の在り方もその一つのテーマに取り上げられた。このことは他の多くの大学の改革案と比べてむしろ稀有なことであつて、我々は上記委員会の積極的姿勢に厚く感謝している。図書館側としては、これより先「大阪大学の改革について」の総長書簡において改革の方向をのべ、その後「附属図書館の現状と問題点」としての簡単な白書を作成、これを評議会、一貫教育検討委員会、図書館委員会等に提出した。その結果、さしあたり昭和45年度以来の図書館の学内予算の大巾増額として一応みとめられた。また、この線にそつた吹田分館が制度的にも確立され、これによって全学の図書館行政のネットワークの進展がみられた。このことは人事面でも、また後述の図書館行政の近代化としての業務機械化についての素地となつた点でも、大学が各部局自治のかべをこえて総合大学としての実を發揮するのにも必要な進化であつたと思う。即ち、大阪大学は永年にわたり各部局が地域的に孤立、分散していたため、中之島分館をのぞいて図書館はいわば小さな図書室として分散し、その結果、図書・雑誌の重複購入、専有化を助長し、またスペシャリストとしての図書館職員の助言を干渉として拒否して、相互利用もさまたげている日本の大学図書館全体にわたる通弊の一つを示していたし、また研究のための図書館利用を偏重し、大学創立以来約40年近くにわたつて教育のための学習図書館の発展を阻害していたのであつた。幸いにして昭和45年に附属図書館本館の増築がみとめられ、本学施設部の御援助と図書館職員のワーキンググループの不断の協同作業によって46年度完成、一挙に2.5倍の増築となつた。この本館は阪大図書館行政の中核であると共に、特に多数の教養部学生の自主的学習のための学習図書館としての大きい役割を果し、また人文・社会科学系の研究図書館としての研究閲覧棟をもつことになつた。上述したように大阪大学改革

の一環としての一貫教育検討委員会が設置されたが、図書館側もこれに積極的に参画し、図書館の一貫教育に対する役割をとりあげていただいたのは幸せであった。もともと新制大学のカリキュラムの基本となる単位制度は自主的予習と復習を待って成立するものであり、そのための場が上述の工学系としては画期的な吹田分館の完成、従前の中之島分館を併せてに大学全体としての整備が行われた意義は大きい。またその間、新たに参考書の増設が実現し、今後はこれらの場を活用し、参考書の一層の充実、指定図書および参考図書の整備、夜間延長開館とむすびついた講義形態の発展等が期待される。

この項の最後に特筆すべきことは図書館業務の機械化が実現したことであろう。これについては本学図書館職員の先見の明、近畿地区国公立大学図書館協議会のこの分野での研究グループとしての中心的活動、学内におけるコンピューター講座の長期にわたる実施、前述の本館および分館のネットワークの成立等の地道な着実な努力の賜である。昭和46年度上期増築と時を同じくして我国の大学図書館としては最初の「業務の電算化」が行われた。またこの面では昭和47年度科研費による研究がみとめられ、その発展が期待される。

その他45年度にはOECDからの寄贈図書、46年度にはフランス大使館から多数の自然科学書を寄贈されたことを付記しておきたい。

このようにして、前館長が本館報 (Vol. 3, No. 4) に申し残された宿題の主要なものは、たまたま大学改革という時機とむすびついて概ね成就されたとみられよう。

B) 学外活動：先ず国立大学図書館協議会においては、従前通り第2部会長館としての常任理事館としてひきつゞきその役割を担当した。その中では従前からの常設調査研究班においては参考図書の基準調査班に参加する他、新たに「新しい大学図書館像」特別委員会が設置せられ、その「理念づくり」の他、図書館予算のあり方、図書館相互利用、保存図書館、図書館総合収書計画等の研究班がつけられ、阪大としては「機械化を中心とした大学図書館の未来像」の研究班を担当した。これらの研究活動が果せたのは阪大図書館のスタッフの有能であったことによるものと感謝している。また46年度には、阪大が国立七大学図書館協議会の開催を担当し、図書館の改革や未来像と関連した情報流通と管理を中心とした要望書をまとめ文部大臣に提出した。

図書という素材自体が共通性の高いものであることを考えるとき、一大学の図書館の管理と運営が効率よく円滑にすゝむためにも、対内的と同様、対外的相互協力と奉仕がますます要求されるであろう。

C) 今後の発展：以上のべた小生の短い浅い経験を通じて感じたことを最後に若干付け加えることをおゆるし戴きたい。

既に前館長が指摘されたように図書館長を専門職とすること、或いは図書館予算を別枠とすることは図書館が独自の能動的活動を行い大学の研究と教育に奉仕するのに最も適した主要条件で、欧米諸国では当然とされながら我国では実現されていない。これには図書館人の一層の人材養成の努力、大学教育の図書館の認識不足の改善、全国的相互協力によるべきもので、一大学の努力ではむづかしい現状であろう。私は館長就任以来、くりかえし大学における R・D & S 時代ということのをべて来た。即ち、研究 (Research)、教育 (Development) を有効に作業するには奉仕 (Service) する人があって、初めて円滑に能率を高めることができる。今日の総合大学では学部、研究所以外に多数のサービスセンターがあって、初めて総合大学の実が発揮されているが、このサービス機関として最古の歴史をもち、しかも全学的に最も広範に研究と教育に直結しているのが図書館であろう。特に情報化時代といわれる今日ではこのことが一層切実に捉えらるべきものと思われる。こう考える時、我々大学人はサービス機関で働くス

ペシアリストを今日よりはるかに尊重して、相互協力すべきものと思われる。図書館の進化もこのような背景があって初めて一層立派になしとげられるであろう。私は館長としてしばしば全学会議に出席し、また多くの人々から貴重な御助言や御支援をいただいたが、同時に図書館を一段低い部局として取扱はれる苦しい経験をもったものとして敢えてこのようなことを申し述べた次第である。図書館は大学内でいわば永世中立国のスイスのように公平な建設的なサービス精神に燃えている。図書館という中立国からみると各学部の特徴・欠点がよくみえることがしばしばあった。どうかこの中立国を大切にしていきたいと思う。

D) その他：最後に在職中問題提起、或いは未解決のまゝに残されたものを列記したい。(1)大学の学内図書予算の一元化、(2)指定図書制度の確立と講義形態の改革とのむすびつき、(3)図書館事務職員の人事管理の全学的合理化 (4)将来の情報検索(IR)に対応すべき準備体制、(5)吹田キャンパスの第2分館の性格付け (6)全学的な図書館利用のためのアンケート調査、等があげられよう。これらはいずれも極めて地味な仕事であるが、全学の皆様の御協力によってのみ実現されることであり、この点を御願ひして筆をおくこととする。(前附属図書館長)

関前館長のあしあと

関集三前館長は去る6月6日付で任期(3年)満了にともない図書館長を辞任されたが、こゝに在任中に果された数々の業績のうち主なものを挙げ、その御努力に対する感謝の気持ちに代え、あわせて今後の図書館運営の指針としたい。

I 附属図書館の充実

1. コンピューター講座長期研修会の実施(昭45)
2. レファレンス(参考業務)に大学院学生の参加(昭45)
3. 同和問題図書の収集(昭45)
4. 基本参考図書の収集(昭45)
5. 吹田分館の完成および工学部分館と産研分館との統合(昭45)
6. OECD刊行物の寄託(昭45)
7. マイクロフィッシュ複写業務の開始(昭46)
8. フランス政府寄贈図書の受入(昭46)
9. 大阪大学学術雑誌総合目録、和文編の刊行(昭46)
10. 本館増築の完成(昭47)
11. 電算機の導入(昭47)
12. 大阪大学附属図書館業務機械化システム概要(中間報告)の刊行(昭47)
13. 含翠堂(土橋)文庫目録の刊行(昭47)

II 館長としての対外活動

1. 国立大学図書館協議会第2部会長(昭44)
2. 大学図書館国際連絡委員会委員(昭45)
3. 「学術情報の基礎的研究」(総合科研)研究分担者(昭45)
4. 文部省大学図書館視察委員(昭46)
5. 昭和46年度国立七大学附属図書館協議会開催(昭46)
6. 全国図書館大会大学部会で講演(昭46)
7. 「学習図書館における業務機械化に関する研究」(科研)研究担当者(昭47)

大阪大学図書館委員会委員名簿 (47 8 1現在)

図書館長	守谷教授(基)	経済学部	小泉教授	福場教授
文学部	梅溪教授 岸畑教授	理学部	浜口教授	藤田教授
人間科学部	未定	医学部	岩間教授	◎坂本教授
法学部	矢崎教授 覚道教授	医学部附属病院	蒲生教授	内藤教授

歯学部	下総教授	山本教授	産業科学研究所	原田教授	石黒教授
薬学部	◎瀧浦教授	栞井教授	社会経済研究所	畠中教授	筑井教授
工学部	◎三川教授	岡田教授	蛋白質研究所	佐藤教授	倉橋教授
基礎工学部	今市教授	鈴木教授	溶接工学研究所	佐藤教授	岩本教授
教養部	高瀬教授	今川教授	事務局	床井局長	
微生物病研究所	加藤教授	米田教授	(オブザーバー)		
			医療技術短期大学部	山崎教授	下河内教授

(註) ◎:分館長

附属図書館豊中地区運営委員会名簿 (47.8.1現在)

運営委員長	梅溪教授(文)	薬学部	瀧浦教授	栞井教授	
文学部	梅溪教授	岸畑教授	基礎工学部	今市教授	鈴木教授
人間科学部	未定	教養部	今川教授	高瀬教授	
法学部	矢崎教授	覚道教授	社会経済研究所	筑井教授	久我助教授
経済学部	福場教授	大野教授	(オブザーバー)		
理学部	浜口教授	藤田教授	医療技術短期大学部	山崎教授	下河内教授

附属図書館書中之島分館運営委員会委員名簿 (47.8.1現在)

分館長	坂本教授(医)	歯学部	下総教授	猪木助教授	
医学部	山野教授	岩間教授	微生物病研究所	米田教授	豊島助教授
医学部附属病院	蒲生教授	内藤教授	蛋白質研究所	佐藤教授	倉橋教授

附属図書館吹田地区運営委員会委員名簿 (47.8.1現在)

分館長	三川教授(工)	産業科学研究所	石黒教授	原田教授	
工学部	岡田教授	池田教授	溶接工学研究所	佐藤教授	岩本教授

学生希望図書一本館一

日本資本主義論争史 上・下 青木文庫
 小山弘建 (青木書店)
 財政学概論 島 恭彦 (岩波書店)
 微分・積分 (上) 数学講座 2
 酒井栄一 (筑摩書房)
 生態学と資源管理 K.E.F.Watt
 伊藤嘉昭 (築地書館)
 工業技術英語の基礎 テキスト、録音テープ
 (カセット) 篠田義明 (南雲堂)
 工業技術英語の構文 テキスト、録音テープ
 (カセット) (南雲堂)
 政治発展の理論と構造 内山秀夫 (未来社)
 新版 会計基準の理論 中島省吾 (森山書店)
 公害なき農業—あすへの挑戦と農業の科学—
 川井一之 (家の光協会)

ワイス,生物学 I, II P.B.Weisz
 佐藤七郎 (東大出版会)
 広告心理の分析 箱崎繪一 (技報堂)
 露地・茶庭 北尾春道 (彰国社)
 日本昔話集成 全6巻 関 敬吾 (角川書店)
 戦後文学の思想 (戦後日本思想大系13)
 高橋和巳 (筑摩書房)
 中里介山全集 第13巻 (筑摩書房)
 アルチュール・ランボオ研究
 西条八十 (中央公論社)
 庭石と石組 (ガーデンシリーズ 2)
 上原敬二 (筑島書店)
 幸徳秋水全集1~7巻 幸徳秋水全集編集委
 員会 (明治文献刊)
 行隠れ 古井由吉 (河出書房新社)

- アガサ・クリスティ (世界ミステリー全集第1巻) A. Christie (早川書房)
 中国の旅 本多勝一 (朝日新聞社)
 神学の展望 J. Moltmann (新教出版社)
 喜田川 信 他 (新教出版社)
 近世無政府主義 (明治文献資料叢書・社会主義篇Ⅲ) 煙山専太郎 (明治文献刊)
 ロシア・アナキズム全史 P. Avrich (合同出版)
 野田茂徳 (合同出版)
 シュベングラー—ドイツ精神の光と闇— A. M. Koktanek 南原 実 (新潮社)
 大デュマ, ドストエーフスキイ, 芥川龍之介 菊地 寛 (世界の間像第1巻)
 角川書店編集部 (角川書店)
 現代コミュニティ論 新 睦人(ナカニシヤ)
 隠された十字架 一法隆寺論— 梅原 猛 (新潮社)
 鯨の死滅する日 (全エッセイ集第3) 大江健三郎 (文芸春秋)
 陰鬱な美青年 J. Gracq (筑摩書房)
 小作井伸二 (筑摩書房)
 西脇順三郎全集 (筑摩書房)
 ルカーチ著作集 2—8, 10, 11 大久保健治 他訳 (白水社)
 アメリカ資本主義の構造—寡占経済とその社会意識— 武山泰雄 (東洋経済新報社)
 新村 出 全集 第3巻 (筑摩書房)
 荷風全集 第13, 16, 17, 18 (岩波書店)
 内藤湖南全集 第5巻 (筑摩書房)
 東芝半導体ハンドブック 1971 総合版 (誠文堂新光社)
 日本思想大系 第37巻 (徂徠学派) 第47巻 (近世後期儒家集), 第62巻 (近世科学思想 上) 第65巻 (洋学 下) (岩波書店)
 白い帆船 庄野英二 (創文社)
 中山伊知郎全集 第8, 13巻 (講談社)
 岩波講座 現代物理学の基礎 I~III (岩波書店)
 河上徹太郎全集 6~8 (勁草書房)
 アシモフ選集 天文篇 2 (共立出版)
 上方はなし (下) 五代目笑福亭松鶴 (三一書房)
 経済発展と変動 (現代経済学 5) 稲田献一 他 (岩波書店)
 金 融 (現代経済学 6) 館 龍一郎 他 (岩波書店)
 Three men in a boat K. J. Jerome
 Science Fiction Story Index. 1950~1968 F. Siemon (A. I. A.)

教官著作寄贈図書

- 一本 館—
 毛利可信 (文・教授) 意味論からみた英文法 (大修館)
 国本哲男 (教・教授) ロシア近代文化史 (ミネルヴァ書房 昭47)
 西山敏之, 小谷恒之, 大塚穎三 (教・教授) 物理学への道 上 (学術図書出版 昭47)
 佐藤清郎 (教・教授) チューホフの文学—その本質へのアプローチ— (塙新書 42) (塙書房 昭47)
 一中之島分館—
 立入 弘 (医・教授) 診療放射線技術 下巻 (南江堂 昭47)
 鈴木友二 (蛋・教授) キニンとその周辺 (中外医学社 昭47)
 佐藤 了 (蛋・教授) 細胞分画法 (岩波 昭47)
 武部 啓 (医・助教授) 遺伝子のはたらき (共立出版 昭47)
 一吹田分館—
 増渕正美 (産機・教授) Dynamics for Process and System Control. c. 1970, New York etc., Gordon and Breach.

業務機械化関係の科研費交付内定

前附属図書館長, 関集三理学部教授を研究担当者として申請していた「学習図書館における業務機械化に関する研究」(一般研究B)に, 590万円の科学研究費補助金の交付内定通知があった。

この研究の目的は, 小型機電算機により, 全学閲覧業務の集中管理, 二次資料の自動検索,

図書選択・資料組織の合理化等を、オンラインリアルタイム処理するための種々の問題点を解明する基礎的研究を行なうことである。本年度の研究実施計画は、閲覧貸出管理システムの開発と問題点の解明である。すなわち、本館の電算機(FACOM230-15)のコアメモリーを増設して16KBから24KBとし、約500mはなれた図書室にテレビディスプレイ装置、データコレクターターミナル等の端末機をおき、その間をオンラインで直結した閲覧貸出システムおよびそのソフトウェアの開発を実験的に行ない、小型機によるオンラインシステム実施にあたっての問題点の発見とその解決について研究を行なう。

研究分担者は、関集三(理)教授、田中幸吉、木沢誠(基工)両教授、志村正道(基工)助教授、山縣敬一(工)助手、田保橋彬附属図書館閲覧課長その他図書館業務機械化担当者である。

洋書のレート 決まる

円切上後の本年度からの洋書(単行書)の購入レートについて、4月以来、書店側と交渉を重ねてきたが、このほどようやくまとまり、6月1日から、次のように実施している。これで、例えばドルについては、旧レートから1ドル当り52円下ったことになる。

種 別	本学レート(円)	書店協定レート(円)	ニクソン・ショック 以前の旧レート(円)
ベルギー・フラン	970	1,000	
デンマーク・クローネ	63	65	65
オランダ・ギルダー	116	120	120
フランス・フラン	74	76	80
ドイツ・マルク	112	115	115
スターリング・ポンド	999	1,030	1,080 (6月24日 以降変動)
イタリア・リラ	75	77	—
スウェーデン・クローネ	92	95	100
スイス・フラン	102	105	110
U.S.・ドル	348	360	400

会 議

——国立大学図書館協議会総会(第19回)——

47.6.8(木)~9(金) 於 福岡県国保会館

出席者：館長、整理、閲覧両課長

晴天にめぐまれた福岡市において、定例の第19回総会(昭和47年度)が2日間にわたり、九大、福岡教育大、九州芸工大、九州工大が当番館となり、各大学附属図書館長、部課長、事務長等約160名が参集して開催され、協議および研究発表を行なった。

第1日(6月8日)

今井会長(東大)等のあいさつのち、議長団として、平岡(京大)、藤田(横国大)、浜田(九芸工大)各館長が選出され議事にはいった。

報告事項

一般経過報告のち、岸本奨励賞は、(1)岡山大学野田正一(岡山大学における指定図書制度

について) (2)東京大学経済学部図書室(経済学部所蔵 主題別目録8部), (3)東京大学医学図書館(電子計算機による雑誌システム)の諸氏が受賞者に選考されたことが報告され, 46年度決算報告(1,093,090円), 同監査報告が行なわれ, それぞれ承認された。

理事会提出協議題協議

- ①47年度予算案(1,082,625円): 原案どおり承認した。
- ②理事・役員の選出: 各地区選出の理事を承認し, 理事の互選により役員の選出を行なった。
会長館: 東大, 副会長館: 東北大, 京大, 第1部会長館: 名大, 同幹事館: 一橋大, 第2部会長館: 阪大, 同幹事館: 広島大,
監事館(会員館の互選): 横国大, 神戸大
- ③規約改正: 沖縄県を九州地区に加えることを承認した。

文部省説明連絡事項(吉川文部省大学学術局情報図書館課長, 上島同課大学図書館係長)

- ①今後の方針: 学術審議会での学術情報基本政策の中で, 大学図書館の果たすべき役割を明確にし, その線に添って施策を実施していく。一次情報の生産援助, 二次情報の作成促進, データセンターの拡大をめざす。日本学術会議の「1970年代の科学技術」のうち, 科学技術情報に関するものは, 今後の情報態勢のあり方を示唆している。
- ②48年度の概算要求: (イ)図書館維持費の増額, (ロ)基本参考図書の実充, (ハ)図書館業務機械化の推進, (ニ)図書館職員, とくに参考業務担当職員の増員, (ホ)大学図書館運営研究会議の設置等を重点的にとりあげたい。
- ③47年度の新規および増額予算: (イ)東京教育大, 岡山大, 広島大の図書館事務部の設置 (ロ)図書館における指導者教育の実施(東大教育学部) (ハ)図書館業務合理化経費, (1)洋書整理業務合理化経費(30,179千円, LCカードの複製無料配布), (2)電子計算機維持費(1,556千円, 阪大), (ニ)学生用図書購入費(大学分につき36%増), (ホ)特別図書購入費(前年同額74,469千円), (ヘ)指定図書購入費(前年同額58,200千円) (ト)図書館業務機械化装置設備費(16,920千円 群馬大) (チ)マイクロフィッシュ撮影装置設備費(第2次2ヶ年計画の1年次), (リ)大学図書館参考業務担当職員の増加(8名, 弘前, 茨城, 東京農工, 静岡, 名古屋工業, 京都教育, 高知, 宮崎)等が主なものである。

各調査研究班報告および討議

- ①司書職制度調査研究班(主査: 深川東大教授): 検討結果を私立大学の検討も経て「大学図書館における専門職制の研究(案)」として刊行することを予定, 諸外国の大学図書館における司書職制度に関する調査を検討中, 「大学図書館研究」(雑誌)を全国的な研究誌として年2回刊行, 等について報告があり, 「国立大学図書館白書」の作成についての提案は理事会に付託。
- ②図書館機械化調査研究班(主査: 高柳東大教授): 図書館業務全体にわたる機械化モデルプログラムの作成とネットワークのあり方を検討し, 近畿地区国公立大学図書館協議会と合同で, MARC II ネットワークの諸型態と, 阪大の機械化の実状について討論したと報告。
- ③図書館建築調査研究班(主査: 東大): 「国立大学図書館竣工パンフレット」の具体案の作成について報告。
- ④参考図書の基準調査研究班(主査: 名大): 欧文二次資料総合目録の編集状況について報告。

研究集会

宮田(滋賀大), 藤村(岐阜大)両館長が座長となり, 「新しい大学像」特別委員会の保田(名大)委員長から経過報告が述べられた後, 研究報告が行なわれた。

- ①相互協力による総合的収書計画(主査: 一橋大, 東大)

諸外国における総合的収書計画の共通性，わが国の現状，わが国での実際の限界として逐次刊行物，政府刊行物，史料等を計画，地域別，主題別の協力の可能性，分担方式，独立施設の必要性，予算的裏付けが検討課題として討議された。

②大学図書館予算のあり方について（主査：九大，九芸工大，広島大，香川大）

47年2月に実施した「大学図書館予算に関するアンケート」の結果について，詳細な報告が行なわれた。

③学生用図書について（主査：岩手大，東北大）

学生用図書の定義，指定図書を除いた各大学における学生用図書の40年度以降年間増加実績，米独における学生用図書の基準等について研究報告が行なわれた。

第2日（6月9日）

分科会協議

第1（予算），第2（人事），第3（奉仕）の3分科会にわかれ，安田（山口大），吉田（東北大），山川（群馬大）の各館長がそれぞれ主査となり，各地区提出の協議題を協議した。

全体会議協議

各分科会主査から協議事項の報告が行なわれた。これにもとづいて，討議が行なわれ次の事項を文部省等に要望することになった。

- ①図書館維持費の増額について：積算基礎の基準単価引上げと光熱水料等の計上，非常勤職員雇用経費の考慮，ならびに級別の是正
- ②図書購入費の増額について：学生用図書の充実，指定図書の充実・拡充，参考図書購入費の予算化
- ③夜間開館手当の増額と夜間開館に伴う時間延長を制度的に確立し，必要な定員を確保することについて
- ④図書館旅費の増額について：各種研修会出席旅費および実情調査旅費の計上
- ⑤冷暖房設備設置の促進とその維持運転費の予算化について
- ⑥図書館近代化設備費の増額について：電算機による機械化の促進 マイクロフィッシュ撮影装置の設置計画促進およびマイクロフィッシュ・リーダープリンターの全大学配置
- ⑦図書館職員の増員について
- ⑧事務長補佐の設置について：部課長制のない大学に事務長補佐の設置および部課長制の拡大と課長補佐の設置
- ⑨外貨の価値変動についての標準的取扱いについて

以上の要望事項については，最終的に常務理事会でとりまとめ，文部大臣に提出することになった。

次期総会は，北信地区で，新潟大学が当番館となって開催することになり，全体会議を終了した。

——分館長会議——

47.7.15(土) 13:00~15:00 於 附属図書館館長室
出席者：館長，坂本，三川，滝浦各分館長，梅溪豊中
地区運営委員長，図書館部課長

①昭和47年度予算配分計画を協議し，了承した。②その他図書館予算のあり方等について懇談した。

——中之島分館運営委員会—第41回——

47.6.6(火) 10:00~11:30 於 5階会議室

①宿日直の廃止について 委員から宿日直について阪大全体のポリシーを立て、その中で措置すべきではないか、との意見が出たが、当館の場合 ①宿日直勤務を継続するにはあまりに男子職員が少なくなり、そのうえ ②分館であり建物管理者は図書館長である ③建物構造上保安対策が充分である ④薬品等の危険物がない ⑤火災予防が充分である ⑥夜間緊急の用件がない などの理由から、宿日直勤務の廃止も止む得ないので、これを廃止し、ガードマンに警備を委託すること、および経費を地区部局で分担することを承認した。

②宿日直の廃止に伴い、夜間開館は、館員が交代で超勤により担当するため、従前より開館時間を1時間繰上げ、9時~19時(土曜日は17時で変わらず)に、またこれに関連してサービス時間の変更も、併せて承認した。詳細は各部局に通知する。

——工学部図書委員会——

47.6.6(火) 14:00~15:40 於 吹田分館会議室

①運営費(工学部配当)46年度決算と47年度予算案。いずれも原案どおり承認。今年度予算案の特色は、過去2年間は建物新築にともなう施設の整理に重点をおいていたが、今年度以降は図書の充実をはかることとし、学生用図書費を大巾アップすることをねらっている。②工学部内複写料金の改正。学部内学科図書室相互の複写料金は従来1枚25円だったが4月1日以降20円に値下することに決定。

——基礎工学部図書委員会(第21回)——

47.5.31(水) 15:00~16:00 於 中会議室

①決算報告:決算報告通り承認。②47年度予算案について:前年度比7.31%増、国内雑誌購入費は今年度雑誌15点を中止したので、6万円減額した。③学生参考図書費・指定図書費の配分:学生参考図書費は図書の値上等で5万円増額した。学生参考図書費は学生数に比例して配分、指定図書費は受講者の比率で配分する。④委員長交代:大塚委員長辞任に伴い新委員長に今市教授を選任。⑤報告:昭和46年度基本参考図書購入計画(本館)に基づき Applied Mechanics Reviews Vol. 1 (1948)—14 (1961) を購入し、当図書室に配架することになった。

■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■ 日 程 ■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■

- 6月5日(月) 第2回日米大学図書館会議 第9回実行委員会(京都大学附属図書館)
 6月8日(木)~9日(金) 第19回国立大学図書館協議会総会(福岡県国保会館,法華クラブ)
 6月23日(金) 第2回日米大学図書館会議 第10回実行委員会(東京大学総合図書館)
 // 大学図書館国際連絡委員会 第6回総務委員会および総会(東京大学総合図書館および同大学経済学部)
 7月10日(月) 国立大学図書館協議会 常務理事会(昭和47年度第1回)(東京大学総合図書館)

7月10日（月） 第2回日米大学図書館会議 第11回実行委員会（東京大学総合図書館）
 7月14日（金） 近畿地区国公立大学図書館協議会 企画委員会（京都大学附属図書館）

人事

大阪大学附属図書館長更迭

関 集三館長 任期満了（6月6日付け）
 守谷一郎館長 就任（6月7日付け）

来訪者

6月5日（月） 中山 政治（小樽商科大学附属図書館事務長）
 6月6日（火） 吉原 友吉（東京水産大学附属図書館長）
 6月11日（日） 吉川 藤一（文部省大学学術局情報図書館課長）
 上島順二郎（ 情報図書館課大学図書館係長）
 6月24日（土） 津田 良成（慶応義塾大学文学部教授）
 7月3日（月） 外山 三郎（宮崎大学長）
 影山 久生（宮崎大学庶務部長）
 7月5日（水） 長谷川 潮（国際基督教大学図書館）
 7月8日（土） 笠野 滋（慶応義塾大学三田情報センター副所長付）ほか1名
 7月14日（金） 森 茜（総理府青少年対策本部企画調査担当参事官付）

職員の異動

転任 谷田 功（7月1日付け 中之島分館受入掛長 奈良工業高等専門学校庶務課図書係長から）
 昇任 野田 尚武（7月1日付け 奈良工業高等専門学校庶務課図書係長 吹田分館整理掛から）
 辞職 榎田 順治（7月15日付け 整理課会計掛用度主任）

編集スタッフ 編集兼発行人 中野六郎 委員 田保橋 彬(長) 木本明男 松浦 正
 津田恭司 山下 進 泉 文雄
 レポーター 浅野次郎 田中久文 町井照子 小山靖裕 篠田恭子 河崎戎三